

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2016年11月号

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第579号

愛は優しい時も 辛い時もあ
る

愛は 傷ついた草を折らず
ほの暗い灯心を消すことが
ない

愛はまた

命のために罪を犯す

時には片腕を切り落とし

片方の目をくり抜きもする

光には陰が伴うように

喜びの陰には必ず悲しみが

隠れている

愛は哀しきもの

優しいという字には

愛いがある

柔和という言葉は

たたき壊されるという意味

だそうだ

その人は地を受け継ぐとい

う

苦しいという字は

若いという字に似ている

呪いという字も

よく見ると、呪いという字
に似ている。

呪いの口偏を 祈りの示偏
に変えると

呪いは呪いという字になる

そこで呪縛は祝福に変わる

敵という字には、

メッセージ(文)が隠され
ている。

そのメッセージを自分の道
に取り入れると

適(かなう)と言う字にな

る

辛いという字にもう一本足す

愛は哀しきもの

関西セミナーハウス活動センター運営委員・所長



榎本 栄次

神さまの御心が一番
愛は哀しきもの

いま私が悩んでいることは

神さまから送られてきた有

り難いメッセージなのだ

だれも恨んだりしなくてもい

い

どんなこともつぶやいたり

しなくてもいい

ここに イエス様が共にいて

くださるのだから

この世の中に無駄な者は何も

ない

そこで神様との出会える場

や時があるのだ

主が共にいてくださる

どんな難しいことが有って

も

それが有り難いことになる

そこに優しさが生まれるだ

ろう

愛は哀しきもの

(日本基督教団牧師)

と

幸いという字になる

有難いと言う字を見ると

難しいことが有ると書かれ

ている

そうだ

愛は哀しきもの

思い通りに行かぬことばかり

思い通りにならなくてよかつ

た

思い通りになっていたら大変

だった

関東活動センター

●2016年度 関東フォーラム 今日的課題1

「いのちを考える」
— 命の現場とキリスト教 —

2016年6月5日 第1月曜

会場 日本聖書神学校

6月から毎月一度、日本聖書神学校をお借りして行われた五回シリーズの講座が無事に終了した。以下はそれぞれのテーマと講師の先生である。

第1回 「キリスト教といのち」 賀来周一先生(キリスト教カウンスリングセンター理事長)

第2回 「死生学から見た自殺の問題」 齋藤友紀雄先生(日本自殺予防学会理事長)

第3回 「自死願望の人にどう接するか」 山中正雄先生(精神科医)

第4回 「いのちを考える」 バイオエシックス(生命倫理)の視座から 木村利人先生(恵泉女子園大学前学長・日本生命倫理学会元代表理事)

第5回 「生と死」 教会の

現場から 賀来周一先生(キリスト教カウンスリングセンター理事長)

この連続講座は主に自死遺族のため、また自死遺族を支える牧師、そして神学生のために始められたところがあった。しかし今年も「自死」に限定されずやや広がりもあり、参加者も様々。(神学生はいらっしゃらなかったと記憶している) それにしても出席者は多い時でも十数名、平均して7〜8名と予定よりかなり少なかったが、それだけに講師とも参加者とも近い距離でオフレコの約束の元、各々が自らの体験や思うところを語ることができ、濃く贅沢な時間を共有できたといえる。

命と死を考える時、私自身

の数年前の不思議な体験を思い出す。大阪の教会にいた頃のこと。六年間の苦しい闘病の末、亡くなられた信者の前夜式の深夜、ご遺族は帰られてご遺体は礼拝堂にたくさんの花と共に置かれていた。灯りを消しては寂しいだろうと思いつつライトだけは消さないでおいた。礼拝堂で用事をすませて、あらためて亡くなられた彼にお礼を言わねばと思つた。牧師の夫と家族を心にかけて支えて下さった方だった。ご遺体のそばに腰を掛け小さな声でお礼を言った。スポットライトに照らされている死者と闇の中にいる私、生を終えた彼とまだ生きている私、しかし何故か両者の間には明確な境がなくなつて、死者である彼も私も等しくそこに在り、ただキリストが私達を見守っていて下さっている、そのような不思議な時間が流れていた。

ぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去つたからである。』(ヨハネの黙示録21章3〜4節)

賀来周一先生の言葉から「信仰者であっても自死を選ぶことがある。しばらく前までは、秘された出来事として取り上げられたが、最近では、自死もまた死の問題の中に組み込まれて語られるようになった。しかし、それでも自然死とは区別されることは事実である。とくに自死者を抱えた家族は、突然消えた当事者へのやりきれない思いと世間から向けられる誤解や偏見の眼を意識しなければならぬ。そこに求められるものはない。そこには同時に希望でもなければならぬ。

なくてならぬただひとつの慰めは何ですか」とわたしたちに問いかけ、「キリストのもの」とされていることと、その答えに死の委ね先を知る。〈中略〉幸いにして教会には、生と死の断絶がない。神は生ける者の上にも、死せる者の上にも主である、何よりも、そこにこそ、人が求める究極の慰めと希望を届けるにもつと持っている」と云わねばならない。だからこそ、自ら命を絶つた人もまた、主のもとにある、それこそ究極の慰めと希望ではないか。そのあたりを牧会的に掘り下げるのが、自死への教会におけるスピリチュアルケアといつてもよいのではないか。』

『また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全く

死については、信仰の言葉には、死を含むすべての人の魂を揺さぶるような慰めに満ちた言葉もある。ルターは「キリスト者は死に向かうのではない。キリストに向かうのである。」と言ひ、ハイデルベルク信仰問答は、「生きる時も死ぬ時も、あなたにとつて

この講座の為、労をとつて下さった講師の先生方には感謝の思いでいっぱいである。幸いにして来年も当講座は継続されることとなった。与えられた命を大切に、お互いの存在を大切に、愛おしむ社会を今この世に取り戻すためにこれからも多くの方と学びを共にできればと願っている。(平井祐美子)

関西セミナーハウス活動センター

●2016年度「開発教育セミナー」第3回

「政治って何なんだ!？」
日本の戦後とこれから」

講師 京都精華大学人文学部 白井 聡さん
2016年9月10日(土)～11日(日)



白井氏が『永続敗戦論』を著した契機は、福島原発事故だった。都合の悪いことは見ない、無責任の体系は、東京裁判で誰も自分に責任があると言わず、敗戦を「終戦」とごまかしてきたことと重なったという。本土決戦が回避されたのは国体護持のためであり、寛大な賠償と速やかな経済復興は、冷戦下のアメリカの作戦だったこと、その中で、日本は冷戦の最前線ではなかったため、議会制民主主義をとることはできたが、その代わりに沖縄が要塞

とされて、本土からは暴力としてのアメリカが見えにくくされたという指摘が興味深かった。敗戦を否認し続けるため東アジアで孤立し、まず対米従属を強めるが、冷戦後のアメリカの対日姿勢は収奪に移っているの、たとえばTPPにおいて国富を売り渡して自己保存をはかる政界・官僚・財界・メディアの対米従属利権共同体が、一方で解釈改憲から国家緊急事態条項、そして全面改憲へと進めるために、有事をおこして憲法停止を企むのではないかという白井氏の危惧は衝撃的だった。与党が議会の2/3以上を占める意味を多くの人が知らず、選挙権の18歳への引き下げが若者の保守化を露呈させた今、私たちに何ができるか、どんな教材が可能か、参加者で話し合った。

●2016年度 修学院フォーラム「社会」第1回

「宗教と戦争を考える」
旧約聖書における「聖戦」をめぐる

神戸松蔭女子学院大学名誉教授 勝村 弘也さん
2016年10月8日(土)



「聖戦」とは何か。問題の根深さを考えると、地道な考究と話し合いを重ねる必要がある。講師の講演は、旧約の専門家として「イスラエル」というアンフィククチオニー説を展開したM・ノートや「聖戦」論を著したG・フォン・ラートの学説に対する今日の評価、殲滅(ヘレム)、エリコ、アマレク、アイ等の記事といった申命記や申命記史家に見られる問題など、私たちの興味のコアな突くものであり、比較的分かりやすく語ってもらった。とりわけラート説を批判するゴットワルト、「聖

戦」概念に替えて「ヤハウェ戦争」という概念を提案するヴァイペルト、アッシリア王とアモスの比較を行ったクラウチなどの学説の紹介もおもしろいものであった。がしかし、やや専門的であったのかもしれない。

話し合いの時間は、参加者のほほとんどから何かしら発言があり、講演内容を深めることができた。参加動機として「聖戦」という言葉に惹かれたからというものであり、聖戦と正戦、十字軍、申命記の読み方、日本の過去の戦争とのつながり、さらに環境破壊と戦争について等の発言があった。この概念が宗教と戦争というテーマを考える軸になることを改めて確認した。

なお今回はKCC(京都キリスト教協議会)の協賛プログラムでもあり、そちらの参加者もあったことを付記したい。

●協力プログラム

金属労協
第48回労働リーダーシップコース

主催：全日本金属産業労働組合協議会(JCM)
2016年10月13日(木)～29日(土)

労働組合の中堅リーダーの全人的教育を目指す金属労協労働リーダーシップコースが、今年も開催された。女性1名を含む34名の受講生が、5つのゼミと多様な講義、また、座禅や茶室訪問、鞍馬

山散策、交流会などを通して、企業、産別を越えて学び合い、親交を深めあった。特別講演には、(株)ソシオネクスト代表取締役会長兼CEOの西口泰夫氏が招かれた。

プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書講座 2016「新しい聖書の学び」**

「いのちの糧の分かち合い」(全 9 回)

講師：山口 里子さん (日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：2016年4月～2017年1月(8月除く)第2火曜18:30～20:00
⑧12月13日、⑨2017年1月10日

会場：早稲田奉仕園スコットホール
参加費：1,200 円 / 学生 500 円

テキスト：『いのちの糧の分かち合いーいま、教会の原点から学ぼう』新教出版社

共催：早稲田奉仕園

■**共催プログラム**

第 2 回 柏木義円公開講演会
「柏木義円の報じた湯浅治郎の廃娼運動での働き」

講師：山下 智子さん (新島短期大学准教授)

日時：2016年11月26日(土)
14:00～16:00

会場：日本キリスト教会館 6 階
参加費：1,000 円、学生 500 円

主催：柏木義円研究会

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時：2016年12月11日(日)
9:00～15:00受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000 円、臨時会費 1,000 円

◆**関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催**

■**2016 年もみじまつり**

日時：2016年11月23日(水祝)
9:00～16:30

会場：関西セミナーハウス
お茶席、邦楽席 (箏演奏)
版画作品展ー所蔵コレクションよりー
フルートとピアノによるもみじまつりコンサート

フルート 園城 三花さん
ピアノ ナネツテ クリスマン グレツコさん

前売：3,000 円 (お茶席、弁当付)

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2016 年度開発教育セミナー**

第 6 回「イスラームから世界を見るー中東とヨーロッパの今」

講師：内藤 正典さん (同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)

日時：2016年12月10日(土)
16:00～11日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：10,500 円 (1 泊 2 食込)

■**2016 年度修学院フォーラム「社会」**

第 3 回パネルディスカッション
「SEALDs が問いかけたものーあなたはどうしますか?」

パネラー：片岡 希望さん (同志社大学文学部学生) 野間 陸さん (同志社大学神学部学生) 中村 あゆみさん (安保関連法に反対するママとみんなの会@京都) 早瀬 和人

さん (日本キリスト教団宇治教会牧師)

司会：榎本 栄次さん

日時：2016年12月3日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 1,000 円、学生 500 円
第 4 回(第 5 回エネルギーを考える)「フクシマに聴くー私たちはいずこへ」

講師：片岡 輝美さん (会津放射能情報センター代表)
嘉田 由紀子さん (びわこ成蹊スポーツ大学学長、前滋賀県知事)

日時：2017年1月8日(日)16:00～9日(月・祝)16:00

会場：関西セミナーハウス
参加費：14,000 円、学生 5,000 円(1 泊 3 食込)

第 5 回「キリスト教徒は政治問題をどう見るかー沖縄と北方領土をめぐる」
講師：佐藤 優さん (作家・元外務省主任分析官)

日時：2017年1月28日(土)
13:30～17:30

会場：関西セミナーハウス
参加費：一般 3,000 円、学生 500 円

ご不要になったグランドピアノの情報を求めています。

お心当たりの方は、
関西セミナーハウスまでご一報ください。



TEL 075-711-2115

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本キリストチャン・アカデミー**
代表理事 小久保 正
本部事務局
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256
関東活動センター
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館 6 F
TEL 03-3207-6198
E-mail:info@academy-tokyo.com
関西セミナーハウス /
関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23
FAX 075-701-5256
関西セミナーハウス
TEL 075-711-2115
E-mail:info@kansai-seminarhouse.com
関西セミナーハウス活動センター
TEL 075-711-2117
E-mail:office@academy-kansai.org

賛助会費・寄付金報告

2016 年 9 月 1 日～9 月 30 日 (順不同・敬称略)		林 宗一郎	10,000
		上野 茂雄	10,000
		株式会社柴橋商会京都支店	10,000
		島田 恒	5,000
◆ 財団本部		◆ 関西セミナーハウス活動センター賛助会費	
日本基督教団早稲田教会 25,000		小林 裕一	5,000
◆ 関東活動センター		織田 雪江	5,000
賛助会費		相浦 和生	3,000
立原 敬一	5,000	岡野 彩子	5,000
◆ 関西セミナーハウス		吉中 直子	5,000
寄付金		中上 卯一郎	5,000
山内 博	10,000	高寺 幸子	5,000
大原 松雄	10,000	◆ 寄付金	
アイボディジャパン 片桐ユズル	10,000	金山 颯子	3,650
TMI 総合法律事務所 田中克郎	300,000	匿名	450
奥田 正義	3,000	杉 萬喜	10,000
株式会社新経営サービス	30,000	柳井 一朗	5,000
廣田 吉久	10,000	井上 勇一	3,600
首藤 達雄	10,000	桃山アシュラム	10,000
株式会社京都スタッフ	10,000	以上、感謝をもってご報告申し上げます。	
京都音楽教育の会	30,000		